

日本子ども社会学会
第27回大会 プログラム

2021年6月12日（土）・6月13日（日）

於 日本子ども社会学会
第27回大会 Web サイト

(<https://www.js-cs.jp/annualmeeting2021/>)

1. 期日

2021年6月12日(土) 9:00 ~ 13日(日) 20:00

2. 会場

日本子ども社会学会第27回大会特設WEBサイト

(<https://www.js-cs.jp/annualmeeting2021/>)

3. 日程

- ・ 予行練習 (テーマセッション・ラウンドテーブル・第27回シンポジウム)
 - 6月5日(土) 14:00 ~ 16:00
 - 6月6日(日) 14:00 ~ 16:00

- ・ 総会 6月12日(土) 12:05 ~ 12:55
(遠隔会議システム方式)

- ・ 自由研究発表
 - 【発表資料公開期間】 6月12日(土) 9:00 ~ 13日(日) 20:00
 - 【質問受付期間】 6月12日(土) 9:00 ~ 13日(日) 20:00
 - 【質問応答期日】 6月12日(土) 9:00 ~ 13日(日) 20:00
 - 【質疑応答掲示板開設期間】 6月12日(土) 9:00 ~ 16日(水) 20:00
(オンデマンド方式)

- ・ ラウンドテーブル 6月12日(土) 10:00 ~ 12:00
13:00 ~ 15:00
6月13日(日) 16:00 ~ 18:00
(遠隔会議システム方式)

- ・ 第27回大会シンポジウム 6月12日(土) 15:30 ~ 17:30
(遠隔会議システム方式)

- ・ テーマセッション 6月13日(日) 10:00 ~ 12:00
13:00 ~ 15:00
(遠隔会議システム方式)

4. 大会参加費 無料(会員限定)

5. 参加方法 別紙「日本子ども社会学会第27回大会 オンライン会場の操作について」 (5月上旬までに郵送予定)でご案内します。

6. 発表時間 (動画で発表する方のみ)

個人発表：発表20分程度 共同発表：発表40分程度
質疑応答は、オンデマンド形式で行います。

7. 発表取り消し

発表の取り消しは、原則、認めておりません。発表の取り消しの場合は、早急にお知らせください。

8. 当日の配布資料

発表資料は、大会ホームページの「自由研究発表」発表資料送信フォーム（<https://www.js-cs.jp/annualmeeting2021/submiturl/>）より提出してください。ご提出いただいた PDF ファイルや URL は、大会実行委員会でファイルの破損やリンク切れがないか、確認させていただきます。万が一、破損やリンク切れが見られた場合、大会実行委員会より発表者へご連絡をする必要がありますので、確実に繋がる電話番号をお知らせください。

なお、発表内容は、通常の自由研究発表に足るもの（発表要旨とは異なります）としてください。大会 Web サイトに掲載した段階をもちまして、自由研究発表の成立とみなします。

また、発表資料を発表者の許可を得ずに転載することは、絶対しないでください。

9. 発表資料の提出期日

締切は、6月4日（金）です。6月5日（土）～11日（金）は、発表資料の公開に向けた Web 作業を行います。こうした関係上、発表資料の提出期日は、大会の1週間前と早くなっております。ご注意ください。

10. 大会実行委員会連絡先

〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町 4-1-10
大阪商業大学公共学部 尾場友和研究室気付
日本子ども社会学会 第 27 回大会実行委員会
E-mail : jscs2021@daishodai.ac.jp

※要旨集録の配布について

今大会では、要旨集録を電子媒体のみで作成します。日本子ども社会学会ホームページから pdf ファイルをダウンロードしてください。公開は 6 月 4 日（金）頃を予定しております。

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 子どもと相互行為 】

- ① 幼稚園におけるごっこ遊びの相互行為の特質
ーベールズの相互作用過程分析を通してー
高橋 公子（奥州市立広瀬保育所）
- ② 幼児は絵本を通して同質であることをどのように語るのか
宮本 雄太（福井大学大学院）
- ③ M子の抱っこの求めに応じた体験に関する一考察
金澤 妙子（大東文化大学）
- ④ 砂遊びに関する保育者の見解と援助
高橋 多美子（和歌山大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 多様なニーズの子ども 】

- ① 児童養護施設出身者の不登校経験と進路形成における困難
西林 佳人（鳴門教育大学大学院）
- ② 多文化保育におけるエスニシティ
ー保育園のエスノグラフィーから考えるー
長江 侑紀（東京大学大学院）
- ③ 児童養護施設で暮らす子どもたちに対する教育実践の現状と課題
ー小学校教員へのインタビューをもとにー
宇田 智佳（大阪大学大学院）
- ④ 小児がん経験者の社会生活への移行
笠井 敬太（大阪大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【子どもとメディア】

- ① 子どもの心理を把握する試みとしての日本児童文学史記述
―鳥越信の批評における「幼児の論理」を中心に―

若林 陽子（東京大学大学院/日本学術振興会）

- ② 紀元二千六百年の子ども向けラジオ台本にみられる「国体」の教え

中村 美和子（お茶の水女子大学）

- ③ 光文社『少年』における誌面に関する一考察
―講談社『少年倶楽部』の影響からの脱却を視野に―

田中 卓也（静岡産業大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 中等教育 】

- ① 農業教育における人格形成について
岩下 猛（熊本県立熊本農業高等学校）

- ② 高校生の学内活動における対話
ーファッションショー実践の観察よりー

大西 未希（法政大学 非常勤）

- ③ 地方低ランク高校における生徒支援の現状と課題（2）
ー高知県における3年間のパネル調査を中心にー

○古賀 正義（中央大学）
○西本 佳代（香川大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 大学生 】

- ① 当事者による不登校経験の語り
佐々木 龍平（広島大学大学院）
- ② 大学ランクによる大学生の進路意識の分化
呉 形（広島大学大学院）
- ③ 進学校出身者の進路意識・進路形成に関する研究
－「個人の意思」の側面から－
青木 結（筑波大学）
- ④ 大学生の生育歴における留学志向形成プロセスの4類型
小林 元気（鹿児島大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 家庭における子育て 】

- ① 若年層の子育てと親としての学びの支援
－A市2歳児死亡事例の裁判と検証報告書から－

吉岡 亜希子（北海道文教大学）

- ② 「イクメン」たちの育児経験
－育児休業を取得した父親を焦点として－

○木田 千晶（岡崎女子短期大学）
鈴木 裕子（愛知教育大学）

- ③ 幼児期の子供と保護者の生活

寺崎 里水（法政大学）

- ④ 子ども時代の被抑圧的体験とその再生産に関する研究
－セクシュアルマイノリティに着目して－

天野 諭（名古屋市立大学大学院）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 社会的な子育て支援 】

- ① 乳幼児/障碍児の親が求める「子育て支援」とケアの倫理
川池 智子（鶴見大学短期大学部）
- ② 育児や家事と仕事の鼎立を可能にする社会的支援に関する研究
加藤 望（愛知みずほ短期大学部）
- ③ 子育て支援における邦楽の活用
—親子で楽しむ箏コンサートの実践に着目して—
○後藤 薫（所属なし）
○中井 雅子（元十文字学園女子大学）
- ④ 母親を中心とした人形劇団の活動とその意義
松崎 行代（京都女子大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 アジアの保育・教育 】

- ① 中国の義務教育における学校間格差の解消
馬 楽（広島大学大学院）
- ② 中国におけるレッスン・スタディの広がり
陳 雨（広島大学大学院）
- ③ 南アジアにおける保育の質向上の動向
ーインドとバングラデシュの事例からー
○小原 優貴（日本学術振興会/お茶の水女子大学）
○門松 愛（名古屋女子大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 保育者・教員 】

- ① 企業主導型保育事業における非保育者の保育理念形成プロセス
橘 那由美（聖泉大学）
- ② 保育者の職の継続（V）
－管理職の対応を中心に－
中井 雅子（元十文字学園女子大学）
- ③ 組織・職業コミットメントにみる幼稚園教諭の職業に対する意識
－私立幼稚園教諭を対象とした質問紙調査を通して－
フィールデン（野呂）育未（大阪人間科学大学）

自由研究発表

2021年6月12日（土）9:00 ～ 13日（日）20:00

【 学校安全・コロナ禍 】

- ① コロナ禍の保育士の現状に関する研究
吉田 貴子（大阪国際大学短期大学部）
- ② 子どもから見たコロナ禍の生活について
ー公営団地に暮らす子どもたちの事例よりー
宮嶋 晴子（九州女子短期大学）
- ③ 新型コロナ禍における子どもの表現活動を伴う教育活動
矢島 毅昌（島根県立大学）
- ④ 被災地における学童保育所の機能復旧と再開プロセスの記録化（1）
ー「平成30年7月豪雨」被災地を事例としたアンケート調査をもとにー
鈴木 瞬（金沢大学）
- ⑤ 母親の働き方が子どもの進路意識に与える影響とコロナ禍におけるその変化
ー沖縄における質問紙調査に基づいてー
 - 西本 裕輝（琉球大学）
 - 馬居 政幸（静岡大学名誉教授）
 - 望月 重信（明治学院大学名誉教授）
 - 藤田 由美子（福岡大学）
 - 多賀 太（関西大学）
 - 角替 弘規（静岡県立大学）
 - 遠藤 宏美（宮崎大学）

第 27 回大会シンポジウム

2021 年 6 月 12 日 (土) 15:30 ~ 17:30
(大会 Web サイトで ID&PW を当日公開)

オルタナティブな進路を選択した子どものゆくえ

司会・コーディネーター

尾場 友和 (大阪商業大学)

内田 康弘 (愛知学院大学)

登壇者

堀 真一郎 (きのくに子どもの村学園・元大阪市立大学)

藤村 晃成 (大分大学)

伊藤 秀樹 (東京学芸大学)

指定討論者

貴戸 理恵 (関西学院大学)

内容

近年、既存の学校とは異なるオルタナティブな学校や教育施設 (以下、学校等) が注目を集めている。2017 年には、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律 (教育機会確保法)」が施行され、全ての子どもたちが適切な学習を受けられるように、国や公共団体には通常の学校以外の教育の場の条件整備が求められるとともに、これまでの小学校や中学校とは異なる教育サービスが積極的に評価されつつある。高校段階においても、全日制高校が主流にある中、すでに通信制高校や高等専修学校などオルタナティブな学校等へのニーズが高まっており、各学校等独自のユニークな実践が広がっている。こうしたオルタナティブな学校は、教育上の様々な理由から既存の学校には行きたくない、あるいは行くことのできない層の子どもたちに多様な教育の機会を提供し、進路の選択肢を広げることに貢献していると言えるだろう。

だが、そうした既存の学校では経験しないような学習や生活は、将来のキャリア形成にどのように関連しているのだろうか。特に高校段階は、今日の日本においては事実上進路の分岐点にあり、そこでの学習や経験は、卒業後の進路あるいは職業の初期キャリアに関連すると考えられている。また、「学歴フィルター」という言葉があるように、既存の学校に見られるような学校歴を重視する価値観は、いまなお社会や若者の中で一定の力学を持っていると信じられている。このような様々な価値観が蔓延する中、オルタナティブな進路を選択した子どもは、どのような経験をしながら各自のキャリア形成を行い、どのような眼差しで社会や自分の将来を展望しているのだろうか。

そこで本シンポジウムでは、教育学者で実践家でもある堀真一郎氏、高校段階のオルタナティブな学校等をフィールドとする教育社会学者、藤村晃成氏と伊藤秀樹氏から報告する。さらに、それぞれの論点を社会学者である貴戸理恵氏に整理いただき、活発な議論をしたい。

テーマセッション I

2021年6月13日(日) 10:00 ~ 12:00
(大会 Web サイトで ID&PW を当日公開)

サイバー空間における「子どもの安全・安心」

【企画趣旨】

「子どもの安全・安心」を考えるうえで、いまや子どものインターネット利用を無視できないことは周知の事実だろう。本学会でも、2008年に子どものインターネット利用に関する共同調査を実施して、「学校裏サイト」や「ネットいじめ」をめぐる当時の子どもたちの実態や経験を明らかにした。しかし、その後の10年でスマートフォンがより低年齢層に普及し、また「出会い系サイト」に代わり SNS が台頭するなど、子どもたちの人間関係やコミュニケーションの多様化・複雑化はいつそう進展した。それにともない、子どもたちが遭遇するサイバー空間上での被害も、「ネットいじめ」に限らず「児童ポルノ」や個人情報の流出など、量質ともに変化したといえる。また、特殊詐欺に無意識に加担させられるなど、知らない間に「加害者」になってしまうという被害も報告されている。

以上をふまえ、本テーマセッションでは、サイバー空間における子どもの生活変容と安全・安心の問題をどのようにとらえ、子どもの人権侵害や犯罪被害、また犯罪行為をどう防いでいくか、最新の動向をふまえた議論を行う。下記報告では、「子どもの安全・安心」という問題圏におけるネット問題の現代的特質を示したうえで、今後求められる「情報モラル教育」の内容や方法、さらに学校と警察の連携事業を事例に情報モラル教育推進の新展開を提案する。そのうえで、フロアとの活発な対話を通じ、本テーマの今後を展望したい。

(担当委員：谷田川 ルミ・尾川 満宏)

【話題提供】

桜井 淳平 (流通経済大学)

『子どもの安全・安心』という問題圏におけるネット問題の現代的特質

玉田 和恵 (江戸川大学)

子どもを被害者／加害者にしない『情報モラル』をどう育てるか

尾川 満宏 (広島大学)・酒井 いぶき (愛媛県警察本部)・福田 佐和 (愛媛県松山西警察署)・白松 賢 (愛媛大学)

『情報モラル推進員』事業を通じたネット問題への教育的アプローチ：
愛媛大学教育学部と愛媛県警察本部の取組

【指定討論者】

石井 久雄 (明治学院大学)

【司会】

谷田川 ルミ (芝浦工業大学)

テーマセッションⅡ

2021年6月13日（日）13:00 ～ 15:00
（大会 Web サイトで ID&PW を当日公開）

超アナログな職場環境をデジタル化せよ！

ーICT の活用による保育現場の改革ー

【企画趣旨】

幼児教育・保育無償化の時代に入り、保育現場ではその多忙さが増している。長時間利用の子どもが増え、子どもへの対応に追われる中、保育業界では保育士不足にあえいでいる。そのような厳しい状況下で、保育の質の維持・向上も叫ばれ、保育者たちはマルチな能力を求められているのが現状だ。そのような中、様々な教育機関の中でも特に ICT 化が遅れているのが就学前の段階だろう。小学校以上においても他国より ICT 化が遅れている日本では、特に就学前期の教育・保育施設における ICT 機器の活用は弱い。本テーマセッションでは、ICT 機器を教育・保育に活用することによってどういった効果が期待されるか、またそのためにはどういう条件をクリアしなくてはならないのかについて、具体的な提案を3人の方にしていただき、それらを軸に今後の就学前教育における ICT の活用について議論したい。

（担当委員：請川 滋大・久保田 真功・田中 理絵）

【話題提供】

高橋 健介（東洋大学）

ICT を活用した保育記録の分析・フィードバックと保育の改善

香曾我部 琢（宮城教育大学）

ICT を活用した保育内容の創造

保坂 佳一（Child Care Web Inc）

保育の場における ICT の総合的な活用

【指定討論】

中坪 史典（広島大学）、田中 理絵（西南学院大学）

【司会】

請川 磁大（日本女子大学）

ラウンドテーブル I

2021年6月12日(土) 10時00分 ~ 12時00分
(大会 Web サイトで ID&PW を当日公開)

テーマ

コロナ禍で顕在化した学校と家族の脆弱性を活かす

ーDX と Diversity の相補性再構築の視座からー

1) コーディネーター

西本 裕輝 (琉球大学)
望月 重信 (明治学院大学名誉教授)
馬居 政幸 (静岡大学名誉教授)

2) 司会者

西本 裕輝 (琉球大学)
馬居 政幸 (静岡大学名誉教授)

3) 提案者

多賀 太 (関西大学)
藤田 由美子 (福岡大学)
米津 英郎 (富士宮市立東小学校)

4) 討論者

角替 弘規 (静岡県立大学)
遠藤 宏美 (宮崎大学)
濱田 純 (秋田大学客員教授)

内容

コロナ禍が顕在化させた公立学校の脆弱性の代表とされるオンライン学習の要請に応じて、2021年4月、全国の公立小中学校で一人1台配布されたPCを用いた授業と家庭学習が始まり、教員はPC活用力、保護者は支援力が求められる。だが、コロナ休校は母親の就労で日本社会の日常が維持されることを顕在化させた。緊急事態宣言下の休職、離職、再就職の難しさが貧困世帯の増加に結びつき、リモートワークの拡大が家庭に新たなトラブルをもたらす。学校教育デジタル化と保護者支援力の現実を問うことにより、日本社会のDX (Digital Transformation) と Diversity の相補性再構築への論議を試みたい。

ラウンドテーブルⅡ

2021年6月12日(土) 13時00分 ~ 15時00分
(大会 Web サイトで ID&PW を当日公開)

テーマ

子どもの遊びと学びをコロナ禍の下で考える

ー相互行為とメディアの観点からー

- 1) コーディネーター
團 康晃 (大阪経済大学)
- 2) 司会者
五十嵐 素子 (北海学園大学)
- 3) 提案者
秋谷 直矩 (山口大学)
松井 広志 (愛知淑徳大学)
- 4) 討論者
齊藤 和貴 (京都女子大学)

内容

新型コロナウイルス感染症対策に伴う生活様式の変化は、子どもの学びや遊びにも大きな影響をもたらした。こうした変化の中、これからの子どもたちの学びや遊びはいかなるものとなっていくのか、という関心は高まっている。また、こうした思考は同時にこれまでの学びや遊びはいかなるものだったのか、ということがうまく捉えられている時に、より良い意義を持つものとする。

本ラウンドテーブルでは、具体的な子どもの遊びや学びについて、具体的なデータを扱い、特に相互行為分析やメディア論・メディア史の視座から研究をされてきた提案者の提案のもと、子どもの遊びや学びをとらえていくための方法論の共有、特にこれから変わっていく遊びや学びをとらえていくためのアプローチの可能性について、議論していきたい。

ラウンドテーブルⅢ

2021年6月12日(土) 13時00分 ～ 15時00分
(大会 Web サイトで ID&PW を公開)

テーマ

子ども文化と子育て支援

1) コーディネーター

田中 卓也 (静岡産業大学)

2) 司会者

和田 真由美 (姫路大学)

3) 報告者

中島 眞吾 (中部大学)

小川 知晶 (川崎医療福祉大学)

野見山 直子 (彰栄保育福祉専門学校)

谷原 舞 (大阪信愛学院短期大学)

木本 有香 (東海学園大学)

田中 卓也 (静岡産業大学)

内容

本ラウンドテーブルは、昭和の時代に子どもとして遊んだり、学んだりしていたことが、子育て支援にどのように関わっていたのか、について提案者の6名の幼少期、子ども時代を振り返りながら、当時の内容や実態、課題などを報告し、今後の子どもたちに伝えたい遊びの重要性について、ともにギャラリーの方と考えるものである。

ラウンドテーブルⅣ

2021年6月13日（日）16時00分 ～ 18時00分
（大会 Web サイトで ID&PW を公開）

テーマ

食マイノリティと学校給食

ー学校において多様性の実現は可能かー

1) コーディネーター

山ノ内 裕子（関西大学）

2) 司会者

四方 利明（立命館大学）

3) 提案者

山ノ内 裕子（関西大学）

四方 利明（立命館大学）

日下部 達哉（広島大学）

浅田 憲彦（甲南女子大学）

黒川 智恵美（広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員）

内容

食物アレルギーおよび宗教上の理由から特定の食物を摂取できず、食生活上の制約から、学校給食の場において排除されがちである子どもたちを「食マイノリティ」と包括的に定義し、「食マイノリティ」の観点から、多様性を承認し、公平性を保証するような学校給食や学校そのものの在り方について議論を試みる。

日本子ども社会学会 第27回大会実行委員会

実行委員 安東 由則（武庫川女子大学）
池田 曜子（流通科学大学）
尾場 友和（大阪商業大学）○委員長
久保田 真功（関西学院大学）
佐野 茂（大阪商業大学）

日本子ども社会学会 第27回大会 プログラム

発行日 2021年 4月 28日

編集・発行 日本子ども社会学会第27回大会実行委員会

〒577-8790 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10

大阪商業大学公共学部 尾場研究室内

